

報告 Report

第5回 彩の国 人にやさしいまちづくり賞を受賞して

—NPOと大学生による福祉施設と家具作りなどのコラボレーション活動—

原稿受付 2011年4月5日

ものづくり大学紀要 第2号 (2011) 82~87

大島博明

ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科

1. はじめに

2011年2月16日、大島研究室が、「第5回彩の国人にやさしいまちづくり賞」を受賞することになった。

テーマ : NPOと大学生による福祉施設と家具作りなどのコラボレーション活動

活動内容 : 技術者教育の場で地域のNPOと連携し、福祉施設の基本設計やインテリア設計提案をおこなっている。

受賞理由 : 「人にやさしいまちづくり」を研究室のメインテーマとし、「人にやさしいまちづくり」を継続的に実践している。

以上が概要である。

2007年から研究室が進めている活動が評価され、埼玉県上田知事から表彰を受けたものである。私がものづくり大学に着任してから、ゼミの学生達と進めてきた、福祉施設の建築デザイン、インテリアデザイン及び家具デザイン・制作活動が対象である。

受賞対象となった行田市にあるNPO法人「CILひこうせん」（木村浩章理事長）との4年間の活動記録を報告したい。（以後 ひこうせんと記す。）

「ひこうせん」は「障害者の自立、そしてボーダレスな社会作りの実現」を目指し、2004年にNPO法人として設立された。現在、居宅介護、生活介護就労支援、障害児童学童保育、グループ生活ホーム等を運営活動している。その中で、絵画やアートグッズ等を展示販売するスペースの設計協力を研究室として、継続的におこなってきた。

2. 活動事例

2.1 カフェギャラリー「それいゆ」

現地調査・建物診断及び設計与件の協議

2008年1月11日に「ひこうせん」より、以前耐震診断をした建物（民家）の増築及び改築について相談を受けた。この増築設計は、障害者支援活動として意味があることに加え、学生達の実務教育の場として有意義と考え協力することとした。

前年2007年6月22日に行った大島研究室の建物診断では、特に納屋と蔵の老朽化を指摘した。その後両施設は解体され、母屋を心身障害者がクラフト制作や販売等をおこなっているデイケア施設「こころ」として使っていた。この建物に、絵画やアートグッズを展示しながら、カフェとしての機能を持つ

スペース「カフェギャラリー」を増築したい意向であった。

母屋部もかなり老朽化が進んでいた。既存母屋に建物を増築する場合、既存部分も新たに建築基準法の適用を受け、予算上もデザイン上も制約が大きいことを指摘した。「ひこうせん」側のイメージする建物を創るために、別棟で計画する案を提案した。

2008年1月30日から設計与件及び進め方の協議を「ひこうせん」側と行い、2月29日には設計与件を整理した。

多目的スペースの設計与件メモ（080229案）

□ 必要諸室 27.5坪

1、多目的室 約12.5坪

・カフェ、ギャラリー等

就労継続支援 B型（非雇用型）

最低定員10人、10坪以上

2、厨房 約8坪程度

・就労移行支援 最低定員6人、6坪以上

・厨房そのものを自立のための活動スペースとする

・車いす対応可能

・業務用厨房でなく、大きめの住宅用厨房の機能を備えたもの

3、相談室 約4坪程度

・定員 4人から5人用+車椅子（6畳程度）

・収納

※打合せにより、後日多目的室に組込むこととなった。

4、トイレ 約3坪程度（1.5坪2室）

・3畳程度で車椅子使用が可能なこと

・1室は厨房用を兼ねる

5、工事予算 2000万程度（補助金申請による。）

以上の与件をベースに設計案を検討することとなった。



写真1: デイケア施設「こころ」



写真2: 設計提案（中村案）



写真3: 上棟時



写真4: 外部

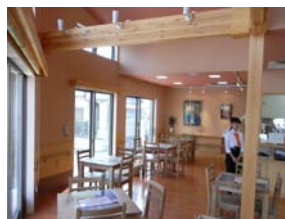


写真5: 内部



写真6: オープンセレモニー

学生達による敷地見学及び施設見学調査

3月11日には、大島研究室の学生により、敷地及び現況施設の詳細調査を行った。「ひこうせん」側から設計与件の説明が行われた。3月28日には、行田市内の障害者施設等の見学を学生達がおこなった。その後「ひこうせん」側と設計条件について、学生を交え再度議論したうえで、設計案制作に入った。ゼミ活動として、繰り返し設計指導をおこない、各自が設計図及び模型を制作した。

4月28日には、「ひこうせん」側の他、他の障害者団体等もたくさん参加して、審査会が「ひこうせん」本部でひらかれた。提出された中村新之助案、松澤健案、川本真也案について慎重な審査をおこない、最終的に中村案が選ばれた。中村案は、広場及び道路側に吹き抜けのある多目的室（カフェ、ギャラリー）を取り、諸機能をよく整理した案であること及び屋根形状を翼の型にしたデザインが評価された。相談室の扱いなど審査会で出た意見を大島が調整し、まとめることとなった。

2008年5月20日県側の融資審査に必要な基本設計図面、工事積算書及び設計監理見積書等の資料を「ひこうせん」側に納品した。6月から7月にかけて行われた県の事前審査を経て、8月4日に「ひこうせん」側に推敲を重ねた最終図面をお渡しした。県の融資審査は幸運に通ったが、実施設計及び確認申請はスケジュール上たいへん厳しい制約があることが解り、協議の上地元のコソノ設計にお願いすることになった。

コンノ設計や施工を担当された久保田興業等のご努力により、10月13日無事着工することができた。11月11日の上棟から年明けの2009年2月末の建物完成まで、数回現場見学をさせて頂き、建物の設計監理のポイントを学生達に体験させることもできた。

4月1日には、神谷学長と共にオープンセレモニーにお招き頂き、関係者の皆様と喜びを分かち合う事が出来た。

2.2 ギャラリー「スペース径」

第1期（2008年6月から10月）

「それいゆ」の基本設計を終了後、「ひこうせん」側から、熊谷の星川で本格的なギャラリーをビルの1階で始めたいので、インテリアデザインを考えて欲しいと依頼された。

2008年6月19日には、研究室の村上君と共に、ビル見学に行き、現地で「ひこうせん」側と打合せを始めた。6月23日には、大島研究室の学生で、建物及び敷地調査を行った。2区画対応を想定した賃貸ビルであり、排煙計画及び水廻りの配置計画が設計のポイントとなること、判明した。

「ひこうせん」側と打合せをして、設計条件を下記のように整理した。

□ 設計与件

- 1、就労移行支援スペースとしてのギャラリー
50㎡程度
- 2、ヘルパー派遣事務所（面積規定なし）
- 3、相談室（12㎡以上）
- 4、静養室（12㎡以上）
- 5、多目的トイレ（6㎡以上）
- 6、トイレ・給湯室
- 7、第1期工事予算 200万

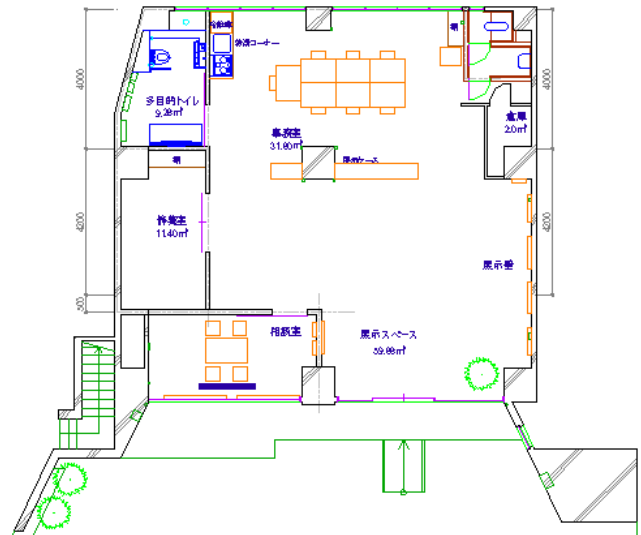


図1 第1期 「スペース径」 工事図面

□ 設計与件

アートギャラリーとしての機能を優先にし、展示スペースは入口側中心に設け、事務室は奥に設ける。事務室・展示スペース間は展示ケースで仕切り、排煙計画上ワンルームとする。壁面は極力増やし、展示壁面として確保する。正面の広いウインドウは、ギャラリーの常設展示を行う。既存の設備配管及び設備を利用して、予算を抑えた計画とする。機能上区切る必要のある部屋は、引き戸として排煙対応をした。県の建築指導課と協議して進めた。

大島研究室の最終案では、ファサードを確保し、正面に常設展示コーナーを設ける計画としたが、福祉事務所からの要望で、正面に相談室を置く案で施工された。施工は、地元の久保田興業にお願いした。第1期工事は、予算上の制約から必要諸室の確保が中心であった。

10月10日、第1期工事が完成し、オープンセレモニーが行われた。



写真7 スペース径 正面



写真8 スペース径 内部

第2期 (2008年10月から2009年2月)

2008年10月21日、「スペース径」で打合せ後、28日研究室の学生と1期工事の見学確認を行った。

限られた予算と時間で第1期のギャラリーを作らざるをえなかったが、第2期で本格的なギャラリーを検討することになった。

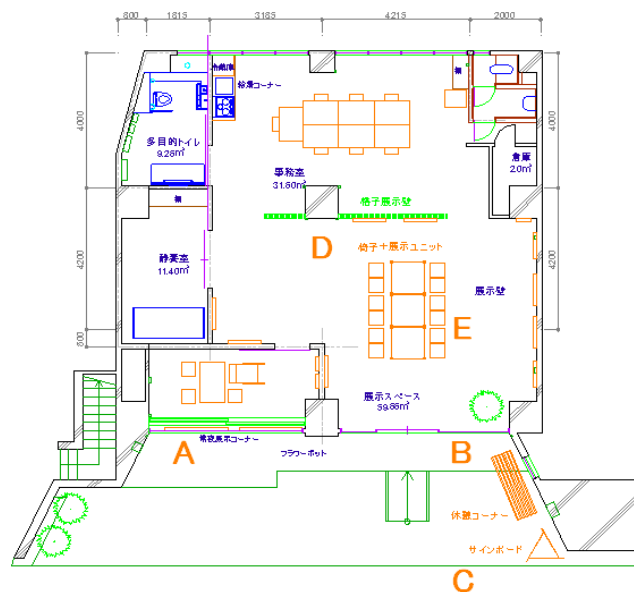
□ 第2期設計提案主旨

1、エクステリア計画

- ・常設展示コーナーの設置
- ・入口休憩コーナー及びサインボードの設置
- ・外部照明計画

2、インテリア計画

- ・木製縦格子展示壁の提案
- ・多様な展示空間計画



A : 常設展示コーナー B : 外部休憩コーナー
C : 外部サインボード D : 木製格子展示壁
E : 展示テーブル・展示椅子

以上を提案骨子とした。

藤澤君、佐々木君でインテリア設計を行い、渡辺、江森君で家具の設計制作を行う分担となった。家具に関しては、大島研究室の卒業制作等を通して今後も順次協力してゆくことになった。

ギャラリーの一般開放やアクセサリ、グッズの展示及びお茶のサービスができる空間が求められた。多様な展示空間計画の中心として、展示機能とテーブル機能を備えた展示テーブルを渡辺君が担当した。また、展示機能と椅子の機能を備えた展示椅子を江森君が担当した。「ひこうせん」側と現地で打合せ協議を行いながら、インテリア設計及び家具の設計・制作をおこなった。

12月26日、「ひこうせん」側と最終打合せを行い、それぞれの卒業設計、製作を完成させ、2009年1月の卒業発表をおこなった。2月24日には、「ひこうせん」側に、卒業設計及び制作の成果を披露した。



写真9：インテリア模型



写真10：展示テーブル、椅子

第3期 (2009年10月から2010年2月)

1期2期と「スペース径」のインテリアデザイン及び家具制作を提案してきた。ひこうせん側と継続協議をしていく中で、ギャラリーを行田に移設する検討の話が出た。

今回の展示計画のポイントである木製格子展示壁を可動にしたいという要望があった。第3期は、村上君、岩瀬君、脇君が担当した。村上君が、展示壁の設計を担当し、岩瀬君が制作を担当した。脇君は、展示椅子の発展形を検討することになった。

展示壁は安定性を考え下部に収納を設け、壁面は格子状にして排煙処理と展示機能の両機能を盛り込む設計とした。w900のユニットタイプにし、移動が可能な計画とした。また、コーナーはR状にして車椅子対応を考えた。卒業制作とし、コーナー部の試作品を制作したが、格子部のコーナー部の処理が難しかった。以後継続して、検討を進めている。



写真 11: スペースKの内部状況



写真 12: 模型による協議

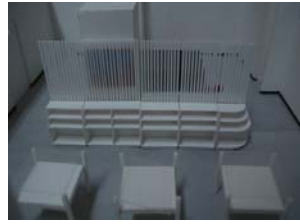


写真 13: 可動展示壁模型



写真 14: 可動展示壁の試作

2.3 広報活動

大学祭での共同展示

2008年11月2日 碧蓮祭において、「それいゆ」及び「スペース径」に関する設計制作活動及び建設の記録を展示発表した。「ひこうせん」側は、アートグッズ及び絵画等の展示会及び販売を行った。



写真 15: 碧蓮祭での展示

「埼玉住まい・まちづくり交流展」での発表

2009年10月25日、日本建築学会埼玉支所主催「埼玉住まい・まちづくり交流展 2009in 深谷」が深谷旧七つ梅酒造を会場に開催された。大島研究室片山君が「それいゆ」及び「スペース径」に関する活動発表を行った。



写真 16: 片山君の発表

2010年10月23日、日本建築学会埼玉支所主催「埼玉住まい・まちづくり交流展 2010in 深谷」が昨年に続き、深谷旧七つ梅酒造レンガホールで開催された。大島研究室松尾君が熊谷市星川通りに卒業設計で計画した「子供と老人が出会う街」について発表をおこなった。熊谷市への新しい街づくりに対する提案である。23日、24日と大島研究室の活動を展示発表した。



写真 17: 松尾君の展示

八木橋 2010年 amp 展

2010年8月26日から29日まで熊谷市八木橋デパートで「amp かわいいサミット 2010」が行われた。

埼玉県、熊谷市、行田市 等とともに大島研究室も後援した。この会は福祉団体がアートやグッズ等を通して、「地域に発信する福祉」を目指すイベントである。大島研究室の「人にやさしいまちづくり活動」を展示発表した。

「ひこうせん」とのコラボレーション活動も注目されたが、熊谷市の星川通りに計画した松尾君の卒業設計「子供と老人が出会う街」も、地元の計画ということもあり、たいへん注目された。



写真 18: amp 展展示

3. 設計実務教育と「人にやさしいまちづくり」活動について

「人にやさしい建築及び環境をつくる」ことを願って設計活動を行ってきた。研究室の活動も同じ目標を持って運営したいと考えている。ものづくり大学の設立趣旨に「実学を重視し、理論から入るので

はなく、まず現実にもものに接し、ものの命を体感、体得し、そこから問題を発見し、自らその解決方法を見出し、自ら企画して制作するプロセスを大切にする。」とある。その理念に共感するものとして、是非設計者実務教育を実践したいと考えてきた。

「ひこうせん」との活動は、ものづくりの基本を学生達と考えるたいへんよい機会だったと考える。同時に、障害者の自立支援に関わるたいへんよい機会にもなった。特に障害を抱えながらも、強い個性で努力する「ひこうせん」の木村浩章理事長の活動エネルギーには、大いに勇気付けられた。

設計活動において非常に大切な、与件分析からプランニングをするプロセスを、この活動では実際に学生達が体験することができた点が貴重であった。施主側と同種の施設見学や多くの議論打合せを行うことが出来た。使い手であり、そこで活動する障害者への理解を深めることもできた。また、建築指導課及び福祉保健センター等を訪れ、設計活動上必要な法的な手続きに関する体験もできた。

「ひこうせん」側に設計協力した2つの施設は、アートを中心にして、地域と障害者の接点の場をつくる試みを行っている。私達の研究室は、「人にやさしいまちづくり」活動を通して、地域の活性化に貢献することを目指している。現在、埼玉県道路公社及び地域とのコラボレーション活動や市庁舎を中心とした公共スペースの有効活用に関する調査研究等も進めており、これらの活動も「人にやさしいまちづくり」活動の実践と考えている。

4. 謝辞

NPO法人「CILひこうせん」の木村理事長、斎藤副理事長、ひこうせんの全スタッフの皆様及びコンノ設計・久保田興業の皆様にはたいへんなご協力、ご指導を頂きました。改めてここに厚く感謝申し上げる次第です。



写真19 「それいゆ」オープン
神本学長と木村理事長



写真20 表彰式

文 献

- | | | |
|------------------------|------------------------------------|-------|
| 1) 「それいゆ」「スペース径」基本設計担当 | | 中村新之助 |
| 2) 2008年卒業研究・制作・設計梗概集 | ひこうせん熊谷事務所のインテリア設計 | 藤澤恒志朗 |
| 3) 2008年卒業研究・制作・設計梗概集 | ひこうせん熊谷ギャラリーのインテリア設計 | 佐々木謙 |
| 4) 2008年卒業研究・制作・設計梗概集 | アートギャラリー空間における展示テーブルの設計及び制作 | 渡辺拓朗 |
| 5) 2008年卒業研究・制作・設計梗概集 | ひこうせん熊谷ギャラリーに関する研究 | 江森 仁 |
| 6) 2009年卒業研究・制作・設計梗概集 | アートギャラリー「スペースK」の間仕切り家具設計 | 村上祐介 |
| 7) 2009年卒業研究・制作・設計梗概集 | アートギャラリー「スペースK」の間仕切り家具製作 | 岩瀬大和 |
| 8) 2009年卒業研究・制作・設計梗概集 | 「スペースK」照明機能付き展示椅子の設計及び制作 | 榎 祐司 |
| 9) 2009年卒業研究・制作・設計梗概集 | WATER CITY IN KUMAGAYA「子供と老人が出会う街」 | 松尾春樹 |